

「証券アナリストによるディスクロージャー優良企業選定」第1位を受賞

日本製鉄は、(公社)日本証券アナリスト協会が実施する2020年度「証券アナリストによるディスクロージャー優良企業選定」の鉄鋼・非鉄金属部門で第1位に選定されました。

本選定の評価基準は、①経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス、②説明会、インタビュ、説明資料などにおける開示、③フェア・ディスクロージャー、④コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示、⑤各業種の状況に即した自主的な情報開示から構成されています。

日本製鉄は、昨年度に比べ、全評価基準で得点率が改善。「経営陣のIR姿勢」では、経営トップによる市場への発信が本格化しトップマネジメントの考え方がクリアに伝わるようになったと評価を受けました。



2020年度版 統合報告書・サステナビリティレポートを発行

日本製鉄は、10月6日に2020年度版の「統合報告書」および「サステナビリティレポート」を発行しました。下記よりダウンロードの上、ご覧ください。



▼統合報告書のダウンロード

https://www.nipponsteel.com/ir/library/annual_report.html

▼サステナビリティレポートのダウンロード

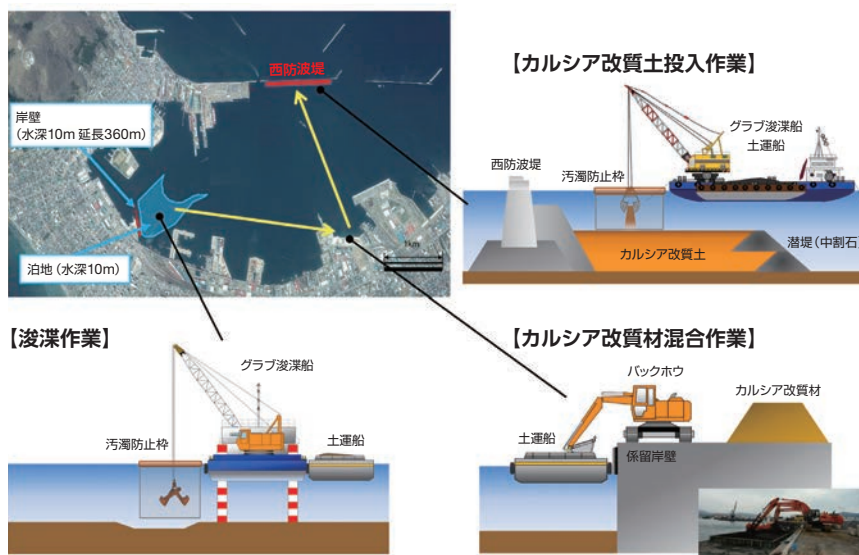
<https://www.nipponsteel.com/csr/report/>

防波堤補強工事でのカルシア改質土の活用について

国土交通省北海道開発局函館開発建設部が2019年度から発注している函館港の西防波堤補強工事において、日本製鉄の鉄鋼スラグ製品「カルシア改質材※」が活用されています。公共工事向けとしては過去最大、北海道開発局の直轄工事で活用されるのは初の案件になります。

西防波堤補強工事は、大型クルーズ船への対応のため函館港の若松地区で行われている浚渫工事で発生した浚渫土にカルシア改質材を混合して、西防波堤の背後に盛土を設けて補強するものです。

日本製鉄では、軟弱浚渫土の活用ニーズによりカルシア改質土が埋立工事用材料、深掘れ窪地の埋戻材料、浅場・干潟の造成材料として利用されることにより、鉄鋼スラグの活用がより一層広がると思っています。



※ カルシア改質材：製鉄の製鋼工程で副次的に生成される製鋼スラグを原料とし、成分管理と粒度調整を施した軟弱浚渫土改質材。

※グッドデザイン賞は、デザインによって私たちの暮らしや社会をより良くしていくための活動で、1957年の開始以来、シンボルマークの「Gマーク」によって広く親しまれています。



**GOOD DESIGN AWARD
2020年度受賞**

「FeLuce®」が2020年度 グッドデザイン賞を受賞

日本製鉄の新商品「FeLuce（フェルーチェ）」（ヘアライン調電気めっき鋼板）が、（公財）日本デザイン振興会が主催する2020年度グッドデザイン賞※を受賞しました。日本製鉄の薄板製品としては初受賞となります。

「FeLuce」は、防錆性能を担保するために施されるめっき層自体に意匠性を付与する製法により生まれた新鋼板です。金属本来の素材感を活かすシンプルなものづくりに挑戦することで、金属素材本来が持つ美しさと、プロダクトに要求される機能性を両立するとともに、エコで無駄のない商品に仕上げました。

ブリキ製品における 「エコリーフ」環境ラベルの取得

日本製鉄が販売するブリキ、ティンフリースチール、ラミネート鋼板の3製品が「エコリーフ」環境ラベル※の認証を取得しました。スチール缶の飲料容器、缶詰などに用いられる極薄系のスチール素材の認証取得は国内初となります。

素材として、使用後のリサイクル効果を含めて環境への貢献度を算出できる規格は他素材にはありません。また、スチール素材は「つくる」段階の環境負荷が小さい上、リサイクル性が高いことから、他素材に比べてスチール容器のライフサイクルでのCO₂排出量は低いといえます。また、マイクロプラスチックによる海洋汚染やプラスチックゴミ処理能力不足・不法輸出・投棄といった廃プラスチック問題が深刻化し、世界的な地球環境問題への関心は気候変動問題とともにさらに高まっています。環境性能に優れたスチール缶に包装された食品や飲み物などを選択することが、環境問題に対する消費者が取るべきエコアクションとなり得ます。

日本製鉄は、消費者の方々に改めて認識いただくための1つの手段として、ブリキ製品の「エコリーフ」環境ラベルを活用し、持続可能な社会の構築に貢献すべく尽力していきます。



※エコリーフ環境ラベル：資源採取から製造、物流、使用、廃棄・リサイクルまでの製品のLCA（ライフサイクルアセスメント）に資する定量的な環境情報を開示する認証制度。ISO14025規格で規定されているタイプⅢの環境ラベルはEPD（Environmental Product Declaration）と言われ、定量的環境データを第三者機関が認証して開示することで製品の環境負荷を客観的に評価できるものであり、エコリーフはこのタイプの環境ラベル。日本では（一社）サステナブル経営推進機構（SuMPO）が「エコリーフ環境ラベルプログラム」として運営。

小田急電鉄片瀬江ノ島駅の新駅舎屋根瓦に TranTixxii®採用



小田急電鉄 片瀬江ノ島駅外観
写真提供：元旦ビューティ工業（株）



「関東の駅100選」にも選ばれ江ノ島観光の窓口でもある小田急電鉄片瀬江ノ島駅の新駅舎の屋根に、日本製鉄の意匠性チタン「TranTixxii（トランティクシー）」が採用されました。施工面積は、785平方メートル（チタン使用量…約3・5トン）。屋根葺き素材として、発色とプラスチックの組み合わせによって伝統建築で多用される緑青色を日本製鉄の独自技術で表現しています。棟などには日本製鉄の特許技術であるIon Plating Goldチタンが採用されており、この採用規模は過去最大です。

今回の改修工事は神社仏閣に用いられる「竜宮造り」で、木造の軒と入母屋の屋根が特徴的な伝統建築技法が採用されています。



広報誌バックナンバー

これまで鉄道、船、橋、缶、車などをテーマに特集を組んできました。QRコードを読み取ることで、バックナンバーをご覧いただけます。なお、定期送付ご希望の方は下記アドレスよりお申し込みください。

<https://www.nipponsteel.com/company/publications/quarterly-nipponsteel/index.html>